

「ZAIDAN Report」第9号では、「一般社団法人 WATALIS」様の活動をご紹介します。

「(2023年度)助成先団体の事業の成果」として、既に当財団の公式サイトにてご紹介させていただいた、「一般社団法人 WATALIS」様に取材を行い、助成金の活用状況や成果、助成実施から2年間経過した現在の状況等をご紹介します。

「一般社団法人 WATALIS」様についてご紹介

● 団体概要

法人名： 一般社団法人 WATALIS
代表者名： 引地 恵(代表理事)
所在地： 〒989-2351 宮城県亶理郡亶理町字中町22
設立日： 2013年4月3日
公式サイト： <https://watalis.jimdofree.com/>
会員の状況： 助成時(2023年度)から約2年が経過し、賛助会員数は増加し、事業テーマも拡充しています。現在の賛助会員数は、個人会員32名、法人会員6団体です。

- 東日本大震災の被災地である宮城県亶理町において、「人と学びの環」をつくり、地域コミュニティの再構築と、多様な人々が集える居場所づくりを目指し活動を開始しました。2021年11月には、公益財団法人 社会貢献支援財団より「社会貢献者表彰」を受けています。
- 孤立しがちな高齢者、障がい者、メンタルヘルスに問題を抱えた地域住民を主な対象とし、「自然との触れ合い」を通じた多世代交流と地域共生コミュニティの創出を目指しています。
- 「WATALIS(ワタリス)」は、宮城県亶理町の「WATARI」と“お守り”という意味の「TALISMAN」を組み合わせた造語です。



【ミツバチを飼育している遊休農地】
*地域の皆さんと共に裏山の竹を伐採し、桜の木に絡みついた蔦を除去した後、花が見えるようになりました。

【役員の皆さん】

(左より)高橋 由紀 理事、
引地 恵 代表理事、
菊地 喜久江 理事



主な事業とあゆみ

- 「ミツバチ飼育を通じた環境保全」と「多様な人々の居場所づくり」という二つの課題を同時に解決する複合的な活動を展開しており、ものづくりワークショップに加え、ミツバチ飼育や竹炭づくりなど、さまざまな共同作業を通じた仲間づくりを促進し、地域に根差した持続可能な福祉活動(誰もが自分らしく、より幸せに暮らせる社会を作るための様々な活動)を実施しています。

【主な事業】

1. 手しごとワークショップ事業

- まだ任意団体だった2012年度から被災地域での交流の場づくりに着手しました。これまで10年以上にわたり、延べ473回のワークショップやイベントを開催してきました。
- 参加者からは「外出するきっかけになっている」「ものづくりが好きな人同士の仲間ができた」「若い時は余裕がなく、習い事ができなかったのととても嬉しい」「お互いの作品を見ながら、みんなでお茶を飲む時間が楽しみ」などの声が寄せられています。

2. コミュニティカフェ事業(「アトリエ&喫茶 中町カフェ」の運営)

- 地域の皆さんが、お茶を飲んで語り合えるような居場所を創るために、ガソリンスタンドの事務所だった建物を改装し、2016年にOPENしました。
- 地元の女性たちが手づくりした着物地の小物をはじめ、海外の手しごと品も並ぶ店内は、丁寧なものづくりと出逢えるお店です。手しごとワークショップの会場としても活用されています。
- 遊休農地で栽培した農作物を素材にして障がい者就労施設の皆さんと共同で開発した菓子類をカフェメニューとして提供しています。

3. 遊休農地活用と自然環境保全事業(農作業、養蜂、竹炭づくりなど)【2023年度助成対象事業】

- イチゴ栽培が盛んな亶理町では花粉交配用にセイヨウミツバチを飼育する農家も多く、里山には少数ですがニホンミツバチも生息しています。
- 環境指標生物であるミツバチに焦点を当て、その飼育を行い、亶理町の豊かな自然環境の保全と持続可能な地域づくりに取り組んでいます。採集したハチミツを皆で分かち合い、心も身体も健康で笑顔で暮らせる「亶理らしい地域復興」を目指しています。
- また、農地の荒廃を防ぎ景観を維持するために、多様な人々が集い、交流の場となるビーガーデンづくりにも取り組んでいます。
- 亶理町では農家数と経営耕地面積が減少し、農地の集約化が進んでいく中で、活用しにくい点在する狭い農地が取り残されつつあるため、農作物を栽培し、障がい者就労施設の皆さんと共同でそれらを使った商品を開発・販売しています。

【最近のトピック】

内閣官房孤独・孤立対策担当室の「官民連携プラットフォーム」において、「ミツバチと共に創る地域共生コミュニティ」として、2024年度の好事例に選定され、動画で紹介されました。

<https://www.notalone-cao.go.jp/platform/promotion/>

【ミツバチ飼育の様子】



【地域の皆さんと共に遊休農地で栽培したラベンダーに訪花するミツバチ】

助成金の活用状況・成果

- 助成金は、「遊休農地活用と自然環境保全事業」において、事業を円滑に運営するための人件費のほか、ミツバチ飼育に必要な巣枠、餌（花粉ペースト）、参加者用の防護具（貸出面布、手袋）、広報用チラシ印刷費などに活用しました。また、里山整備活動で発生する竹廃材を活用するための用具購入にも活用しました。
- 高齢者や障がい者、メンタルヘルスに問題を抱えた地域住民を対象に、「ミツバチの世話」「みつろうキャンドルづくり」「はちみつ試食会」といった体験プログラムを24回実施し、延べ210名の参加者を得ました。
- 参加者全員が「参加して良かった」と回答するなど高い満足度を達成し、活動後の交流も生まれ、多世代間の交流の場を提供することができ、地域共生コミュニティ創りという期待効果は概ね達成できたと考えています。
- 助成事業で実施した蜜源植物の栽培（花の種・苗・プランターを購入）は、その後の継続的な栽培活動のノウハウの基礎となりました。

【蜜源植物の栽培】

＊ミツバチを飼育している遊休農地で、参加者が種まき前に除草や石拾いをする様子。地道な環境整備にも皆で取り組みながら交流を深めました。



助成から2年経過した現在の状況

- 助成金で購入・整備したミツバチ飼育用品（面布、防護用手袋、巣枠、越冬用カバー）などの物品は、現在もミツバチの世話や観察会などで活用を続けており、活動・事業において大きく貢献しています。
- また、事業を通じて得られた知見や人的ネットワークの拡がりも、現在の活動基盤として活かされ、組織面・活動面での拡充に繋がっています。



【助成金で購入・整備したミツバチ飼育用品（面布、防護用手袋、巣枠）を活用したミツバチ飼育活動】

＊津波被災エリアの未利用地での試験的飼育にもボランティアと共に取り組んでいます。



【参加者が協力してミツバチの巣箱の様子を観察している活動風景】

＊助成で購入した面布、防護用手袋、巣枠を活用しています。

【①ミツバチ飼育を通じた環境保全意識の高まり】

- ミツバチ飼育を通じた自然との触れ合いにより、参加者の環境保全への関心を高めることができました。意識の高まりが活動継続につながり、現在も実践活動として遊休農地周辺の里山の竹害対策（竹林伐採や竹炭づくり）を行っており、助成事業で購入した用具も活用しています。
- また、助成事業で得た栽培ノウハウを活かし、蜜源植物の栽培も継続的に行っています。



【助成事業で無煙炭化器を購入したことをきっかけに開始し、現在も継続している里山の竹害対策（竹炭づくり）の様子】

＊賛助会員である宮城第一信用金庫職員の皆さんも活動に参加いただいています。



【②地域で広がる連携の輪】

- 地域共生コミュニティ創りの成果として、地域内の障がい者グループホームである「アップルファーム亶理」との連携を強化しています。これにより、障がいのある方々も活動に参加し地域住民と継続的に交流できる新たな仕組みが生まれており、助成事業の成果を活かした発展的な活動となっています。
- また、ミツロウキャンドルづくりや、はちみつを使ったコスメづくりワークショップなど、ミツバチをテーマとした活動内容も多様化しています。



【助成事業の成果から連携が深まった、障がい者グループホーム「アップルファーム亶理」利用者の皆さんと取り組んだヒマワリ畑の除草と種蒔き】



【地域内NPOと連携して実施した蜜源を探すフィールドワークの様子】
＊沿岸部未利用地を散策し、地域の自然環境への理解を深めました。



【地域内化粧品会社と連携して実施したはちみつを使ったコスメづくりワークショップの様子】

今後の抱負など…

- 今後もご支援いただいた「ミツバチをテーマとしたコミュニティ創り」を活動の核とし、活動を継続発展させていきます。
- 具体的には、亶理町内の障がい者グループホームや就労継続支援B型事業所亶理との連携をさらに深め、コミュニティファームの開設や運営などを通じた、より深い交流を実現したいと考えています。
- また、地域の環境保全活動として、里山の竹害対策にも注力していく予定です。